



おがさわら

議会だより

第 139 号



画像提供：大林隆司（元・亜熱帯農業センター）

奇跡の復活を願うオガサワラシジミ蝶！

小笠原の自然から消えてしまうかもしれない動植物！いなくなったら二度とよみがえることはない！世界自然遺産の地で、今、守ることが私達（村民）に課せられた課題です！

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

● 村役場議会事務局 ● 地域福祉センター図書室
● 母島支所 ● 母島図書室

で閲覧できます。

また、パソコンやスマートフォンなどで見ることもできます。

小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で **検 索**

会議録検索システムで閲覧・検索ができるようになりました。
過去の会議については順次掲載する予定です。



議案審議	2
一般質問	3
委員会報告	6
議員レポート	9
編集後記	10

こんなことが決まりました

令和2年第3回定例会
9月8日、9日

総額3億8950万円を追加一般会計ほか各会計補正予算

- ✓ おがさわら丸乗船者の新型コロナPCR検査費用（専決）・・・・・・・・5440万円
- ✓ 新型コロナウイルス感染症対策として、滞在施設の確保経費（専決）・・・1535万円
 Q：滞在施設の借り上げ期間は？（清水） A：7月から3月までの9か月間。（総務課長）
- ✓ 農産物出荷送料補助増額分（専決）・・・・・・・・450万円
- ✓ 滞在型観光（ワーケーション）促進事業・・・・・・・・7400万円
- ✓ デザインマンホールの設置（父島東町地区にポケモンキャラクターのマンホールも設置される予定です）・・・・・・・・462万円
- ✓ 奥村分譲予定地測量委託・・・・・・・・627万円

など

奥村分譲地の概要（執行部説明より）

全体で8～9区画 150㎡前後で分譲。詳細は来年度以降になります。

昨年から分譲地の候補地を探していたところ、奥村にある民有地の用地買収の方向性が出てきた。今回の補正予算では、土地を分筆して購入するために、正確な用地測量を行う。令和3年度は測量に基づき造成設計、用地買収を行い、4年度に造成工事、可能であれば5年度早々に分譲を開始する予定です。

役場職員の定数を改めます

母島の簡易郵便局業務の委託を受けるにあたり任期付職員を任用するため、令和3年4月から職員が1名増の127名になります。

新型コロナウイルス感染症対策条例を制定

新型コロナウイルス感染症のまん延防止・まん延時の早期収束に向けた措置（竹芝でのPCR検査の実施など）を行う根拠を明確にするため、新たに条例を定めました。

緊急生活支援金制度を延長します

新型コロナウイルスの影響で収入が減ってしまった世帯に対して村が実施している緊急生活支援金制度について、対象期間は当初9月までの予定でしたが、12月まで延長することにしました。

その他の議案

- 告式条例の改正
 - 村税条例の改正
 - 出資法人「小笠原ラム・リキュール（株）」の経営状況
- など

一般質問

片股敬昌議員



他国との領土に関する問題及び見解の相違についてどのように教えていくか
(領土に関する教育及び国際交流の意義について)

片股議員 子供たちが他国の文化に触れる機会が増えてきた。我が国の領土問題についてどのように教えているか。

教育長 文部科学省の学習指導要領に基づき地理、歴史、公民の中で竹島、北方領土、尖閣諸島について学んでいくが実際の学習指導内容は学校長によって決定される教育課程に基づき行われている。

片股議員 学校教育は教職員組合の政治的イデオロギーで教育の中立性が脅かされてきたと認識しているが。

教育長 教職員の研修により、中立の立場での教育を行うよう研鑽に努めている。村民の多くの方に実際に学校の授業を見て、感想をお寄せいただけると幸い考える。

片股議員 小笠原諸島は特殊な歴史をもった島だが米国の施政下から日本復帰して50年が過ぎた。領土学習で子供たちに期待する事は。

教育長 郷土小笠原に対する愛情や誇り等を育みたい。そして小笠原で生活していることが我が国の領土、領海等の確保に大きく貢献していることに注目させたい。

片股議員 留学等で海外に行き、実体験を通して成長する子供たちへの期待は。

教育長 多様な他者の考えを受け入れ、また自身の意志を伝えるコミュニケーション能力の向上に期待、また本村を深く考えるきっかけにしてほしい。

安藤重行議員



1 防災対策

安藤議員 ①近海津波の到達時間は非常に短い、それをいち早く知らせることに海洋研究開発機構が取り組んでいるが、現在の進行状況は。②災害時の電源の確保に早急な対応が必要だ。どう取り組んでいるのか③細部に渡っての精査・検証すべき点が多いが村の方向性は。

総務課長 ①研究成果は公表されているが、実用的な運用は未だ情報がなく引続き調査の予定。大きく揺れた時は直ちに高台への避難を知らせる②電気等のライフライン停止に備えた備蓄のお願いと高圧電源車が1台確保されている。復興拠点や避難所の活用が主利用。

村長職務代理者副村長 ③国・都・関係機関と連携し、その時点での最大限可能な限りの対応を行う。

2 シルバー人材センター設立に向けた対策

安藤議員 ①人材センターの職員の雇用が生まれるが、設立にはどの程度の調整準備期間が必要か。②設立に向けて住民調査を実施して現状把握に努め、また、2500人以上の島で、無設置は小笠原村だけ。国の施策から取残されている。今後の取り組み方は。

村民課長 ①概ね1年程度の調査期間が必要②設立検討は住民調査の中で精査され、村の高齢者の雇用及び生きがい対策を検討するための調査も必要であると考えている。

金子隆議員



オガサワラシジミの絶滅回避について

金子議員 飼育個体群の繁殖途絶にあたり今後の保全策は。

環境課長 環境省からの発表は次のとおり。

1. 保護増殖事業の検証と分析。2. 現地で生息が確認できれば速やかに保護対策に取り組む。3. 今回を教訓とし、他の絶滅危惧種の保全対策に取り組む。

金子議員 遺産価値の損失につながる緊急事態に際し、村長名にて、絶滅回避を呼び掛ける宣言を出せないか。

村長職務代理者副村長 地元を代表する立場で、職務代理として村長からのコメントを発信。(9 ページ参照)

今後の遺産価値の管理体制について

金子議員 他の絶滅危惧種の保全管理体制も、総点検が必要。

環境課長 保護増殖事業を行う予算が担保されていないのが課題。今回の教訓をもとに関係機関に点検の実施を要請。

金子議員 既存の法制度の下、各機関の分担管理は限界ではないか。遺産価値を管理する為の新しい法制度や枠組みがないと、絶滅危機が繰り返されるのでは。

村長職務代理者副村長 自然を守るためには、法制度の絡み合いや複数の担当部署、予算区分など、多様な課題があって、問題の一つにまとめることは容易でない。一方、縦割りを取り払えば、より効率よく、効果的な保全ができるとも考えられるので、地域連絡会議の場で提案したい。

清水良一議員



農地確保のための施策について

清水議員 コロナという緊急事態の中、不要不急の自粛が叫ばれ多くの産業に影響が及んだ。今後、国都村の財源も厳しくなりコロナ問題の長期化も懸念される中、本当に必要なことは、多くの島民が土地につながり食料を生産することではないか。農業をやりたい方に農地を、持ち家を持ち庭で畑をやりたい方には宅地を、集合住宅の方には市民農園や宿泊型農園を。世界自然遺産の小さな島で使える土地は限られているが、①現在の農地確保の政策は。②過去に公的な事業で開墾し現在使われていない土地の面積と固定資産税は？③都・村の所有または今後取得する土地で農地として活用できる土地は。④所有者不明土地利用の新たな仕組みは。⑤食料自給率アップのための農地、宅地、市民農園等有効な土地利用の推進について。

産業観光課長 ①農業経営基盤強化促進法により現在35件11.4ヘクタールの農地の利用権を設定。②合計31.2ヘクタール。③都有地を村が借り蝙蝠谷農業団地の運営を開始、現在7名が就農、まだ未利用地が多く残されている。適した土地があれば個別に対応。④平成30年の農業経営基盤強化促進法等の改正により変わった。農業者への説明を10月に予定。

財政課長 ②使用がなければ山林となり固定資産税は払われていないと推測。

村長職務代理者副村長 ⑤2600人の食料を島内で賄うことは現実的ではない。災害発生時の食料は島内の備蓄と島外からの調達により賄う。ただ土地とかかわる機会を持つことはよいことであり村として関われる事業があれば検討。

一般質問

築館 俊一 議員



有料老人ホームについて

築館議員 生涯安心して住めるよう母島にも老人ホームの建設を希望するが。

村長職務代理者副村長 父島の有料老人ホーム太陽の郷は本村居住の在宅介護が難しい高齢者を対象としている。新たな施設の建設、運営は人員確保やコスト問題等ハードルが高いものと考えている。

村民課長 介護の現状は父島、母島共にデイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ等在宅サービスを中心に生活支援を実施。母島への建設は人員配置として管理者、生活指導員、栄養士、調理員、介護士など大幅な増員が必須。村財政の負担増もあり考えていない。有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、内地の入所施設を利用するなど本人、家族と相談しながら対応している。

築館議員 施設建設が難しいならば今後高齢者の福祉・介護をどう考えているのか。

村民課長 高齢者が要介護状態にならないように介護予防事業の充実、強化が必要。既存の施設や団体のサービスを更に充実させ人材育成、地域住民の参加、元気な高齢者が担い手になり社会参加し自身の介護予防につながる事業を進める。地域で支え合う仕組みづくりには自助、互助、共助、公助のつながりが重要。今後よりよい連携のための体制づくりを図っていきたい。

築館議員 充実した体制のための人員確保は。

村民課長 明老会が各サービスの日数を増やせるように人員増をしている。職員定数の体制が整えば更なる人員増がなくても今の体制でサービスの充実は可能だと考えている。

稲垣 勇 議員



母島の金融問題について

稲垣議員 令和3年4月より小笠原村が受託して行う母島簡易郵便局の運営について、母島支所の体制について現状の検討状況と今後の計画について聞きたい。母島支所の業務に加えて、新たに業務が増えることについて、体制として大丈夫なのか。個人情報の取り扱いなどしっかりやってくれるのか島民は心配事が多い。

村長職務代理者副村長 来年4月からの母島支所における簡易郵便局業務については、先般7月8日付で日本郵便(株)から受託の内定をもらった。今後関東財務局へ銀行代理業務の申請、日本銀行の納入金取扱い申請、各種契約の締結、母島支所内の施設整備など予定し、支所長を中心に実施している。

母島支所長 現在の母島簡易郵便局で取り扱っているものは、引き続き取り扱うことができるよう調整している。おがさわら丸出港日前日が土日祝日の場合に開設している郵便窓口については引き続き午前9時から午前11時まで開設する。ATMについては、平日の午前8時30分から午後5時までを申請し調整中である。内地からの郵便物、ゆうパックの配達についてはこれまで通りの農協母島店で実施する。簡易郵便局のための事務研修を日本郵便、小笠原郵便局において窓口業務研修を実施していく。コンプライアンスの徹底について情報管理や秘密の保持、情報の厳格な管理を徹底し、母島の管理に引き続き安心してご利用いただける簡易郵便局運営を目指していく。

新型コロナウイルス感染症対策

6月の前委員会以降の国・東京都・村の対応などについて報告を受けました。

■ 来島者受け入れ対策

▶6月30日、村は不要不急の来島自粛のお願いを終了。また7月から、船内での密接密集を避けるため、おがさわら丸は400人前後、ははしま丸は 100人前後を乗船客数の上限と設定されました。

■ 感染防止対策

- ▶感染疑い者の滞在施設の確保…父島、母島合計3部屋を村が借り上げ開始
(父島7/1、母島7/9 村)
- ▶おがさわら丸乗船客に対する感染リスクお知らせサービスを開始(8/4 都)
- ▶村内診療所で感染の診断をする抗原検査を導入(8/5 村)
- ▶竹芝桟橋においてPCR検査の試行を開始(8/11 都、村、小笠原海運、新型コロナウイルス検査センター(株)、国立国際医療研究センターの5者共同)
- ▶おがさわら丸乗船前にPCR検査の結果がわかる方法に変更(9/1 同上)

問 PCR検査の方法が変更となった。経緯は。検査率等の課題は。(杉田)

経緯 当初、乗船当日に竹芝の船客待合所で検体を採取し、運航中に検査結果が出る方法で始めたが、デメリットが判明した。

デメリット

- ①検査結果が出る前に乗船する体制に不安の声が多数あった。
- ②陽性者とその濃厚接触者への対応が、現実的には難しいことが分かった。
- ③検体の採取に毎回30人以上で対応していたが、長期的な人員確保が困難。

関係者で改善策を検討した結果、検査キットの事前配布、乗船前日までに提出、出港前に検査結果を確認できる形に変更した。

課題 当日検査を受けられないという課題は承知している。今後もいろいろな方法を模索していく。(総務課長)

その他の意見・質問

問 ケーブルテレビの活用を。(清水) **答** 行事ごとに検討。(村長職務代理者副村長)

問 妊婦などへの支援を。(清水) **答** 考えていない。(村長職務代理者副村長)

問 出荷補助、送料補助について。産品は季節的なものもあるが。(金子)

答 予定どおり9月30日で終了。(産業観光課長)

問 特別定額給付金の未申請の方の状況は把握しているか。（安藤）

答 14世帯が未申請。通知案内を複数回実施した。（村民課長）

東京島しょ農協の新設分割・母島簡易郵便局

7月8日、日本郵便(株)から簡易郵便局の受託契約の内定を受けました。

受託内容

- ・簡易郵便局の営業時間は午前9時から午後3時まで。
- ・ATMの営業時間、ゆうパック及びチルドゆうパック等の取扱いは調整中。決まり次第村民だより等で広報する。

小笠原諸島世界自然遺産

関連する主な会議のスケジュール、愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例（ペット条例）の施行準備の状況などについて報告、質疑がありました。

委員からの意見・質問

問 来年は遺産登録10周年。何か計画は。（金子副委員長）

答 村民に対し世界遺産に関する普及啓発。他の世界自然遺産地域などの情報収集、発信。（環境課長）

問 在来樹木による森林の修復手法検討会（第1回）とはどのようなものか。（杉田）

答 樹木を伐採してもまたすぐ生える。生えてこなくなる手法などを今後検討。（環境課長）

そのほか、オガサワラシジミについて各委員から質問がありました。9ページの議員レポートもぜひお読みください。

航路改善 ～ドック期間中の代替船 新さるびあ丸について～

新さるびあ丸は10月に小笠原航路の試験運行を実施の予定、令和3年5月におがさわら丸のドック時期に代替就航を開始します。ドック期間は18日間（5月10日～27日）で、5月19日～20日に父島に入港する予定です。

問 漁協、農協からの要望に、対策は考えているか。（稲垣）

答 5月はパッションフルーツの出荷時期であり、また鮮魚の運搬等の課題があったが、村民生活全体を考え代替船を用意できる機会を捉えた。鮮魚の運搬にはコンテナ8～10個使用できる見込み。水産物の扱いは小笠原海運と漁協とで調整する。八幡丸での出荷についても調整をお願いしている。ゆり丸、共勝丸の活用など考えたい。（村長職務代理者副村長）

小笠原航空路開設推進特別委員会 9月9日

杉田一男委員長

稲垣 勇副委員長

小笠原航空路協議会 (7月31日開催)

(1)小笠原航空路P I 評価委員の選任

(2)令和元年度の調査結果、令和2年度予定されている調査事項

(令和元年度に実施された調査項目)

- ①地質、②航空測量・深淺測量、③気象・海象、④環境、⑤就航機に関する調査

小笠原航空路協議会 …

航空路開設を検討する東京都主体の協議会。村長と議長が委員として会議に出席します。

会議の内容、資料などについては、東京都総務局行政部のホームページに掲載されています。

⇒<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/05gyousei/06koukuuro.html>

現在都が検討している2つの機材

開発メーカーから開発動向等聞き取り調査を実施、就航の可能性について調査しました。

ATR42-600S

国内航空会社が定期便として既に使用しているプロペラ機の派生型。座席数最大48。滑走路は1,000mで離着陸可能。

AW609

現在開発中のティルトローター機（垂直離着陸航空機）。座席数は最大9席。400m程度の滑走路で離着陸可能。

課題 国内でティルトローター形式の民間機を飛行させる場合、法令整備が必要な可能性がある。

(令和2年度実施予定の調査項目)

- ①P I ・ 航空機等、②空港計画、③環境に関する調査

問 P I のスケジュールは。(清水) **答** 現時点では未確定。(企画政策室長)

問 空港施設の地盤がどの程度あれば中山峠を削らずに済むか。(片股)

答 少なくとも数十メートルの滑走路高が必要。(企画政策室長)

硫黄島調査特別委員会 9月9日

片股敬昌委員長

杉田一男副委員長

FCLP (空母艦載機離着陸訓練)

現在硫黄島で暫定的に実施しているFCLPを、鹿児島県馬毛島で行う基地整備計画が発表され、その概要について執行部から報告を受けました。

問 基地交付金額を減らさない工夫が必要では。(杉田)

答 旧島民は帰れない中で、基地利用だけが進み大変な問題になった経緯がある。今まで暫定使用として村が認めてきたことに、1度けりをつけるべきと考える。一方で硫黄島は自衛隊の訓練拠点として活用されているので、所要の金額が確保できるよう、これからも要望していく。(村長職務代理者副村長)

「オガサワラシジミは絶滅してしまうの?!」

Wどんなチョウ?

固有のチョウであるオガサワラシジミは、全長わずか1.5cm程度、瑠璃色の美しい羽根を持っています。かつては多数生息していましたが、父島列島では1980年代前半に激減し、1992年以降は確認されていません。私自身も、1990年の中央山付近が父島での最後の目撃でした。母島でも2018年以降は記録がなく、野生絶滅が危惧されています。減少要因は、グリーンアノールの捕食、自然災害、植生変化、開発や採集圧など、複数の可能性が挙げられています。

本種は、環境省や東京都をはじめ、地域の方々など多くのご尽力により保全されてきました。

W飼育個体がゼロに!

内地では、多摩動物公園(2005年~)と新宿御苑(2019年~)で飼育・繁殖が行われてきました。しかし、近親交配の影響か、今年の8月25日に飼育個体が全て死亡したことが発表され、種の存続が危機的となりました。

環境省は、生息が確認された場合は速

やかに保護対策に取り組み、さらに、この教訓を他の絶滅危惧種の保全対策に活かすとしています。

W絶滅してしまうの?!

地域として、みすみす絶滅を待つことは出来ません!自然遺産の象徴のひとつであるオガサワラシジミが地球上からいなくなってしまうことは、小笠原にとって大きな損失です。また、絶滅の連鎖も心配されます。

一方で、私たちは、絶滅の淵にあった生物の生息数を劇的に回復させた経験があります。そうです、**あかぽっぽ**です。20年前は幻の鳥といわれていましたが、島民や行政、研究者など多くの方々の努力によって、今では集落でも群れで見かけるようになったのです。

Wオガサワラシジミの絶滅回避へ!

あきらめたら、そこで終わってしまいます。今こそ英知と実行力を結集し、出来ることは全てやり、「オガサワラシジミの絶滅を回避」することが地域としての責務といえます!

【村長からのコメント】村役場HPより

「この度のオガサワラシジミの生息域外個体群の繁殖途絶は、生息域での確認ができない状況においては、限りなく絶滅に近づいているとの考えもあるが、我々村民にとっては、小笠原諸島に息づく貴重な生き物が何の努力も対策もされないまま、失われていくことは容認できるものではない。また、これまでの関係機関、専門家の努力を無にすることがないように、村民もできる限りの協力を行い、絶滅回避のための施策、調査を求めるものである。」

令和2年9月8日 小笠原村長職務代理 副村長 渋谷正昭

令和2年第4回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
12月15日（火）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
12月16日（水）	午前 9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後 2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議、決特設置
12月24日（木）	午前 9時	令和元年度決算特別委員会	
12月25日（金）	午前 9時	令和元年度決算特別委員会	
	午後 2時	本会議	議案審議、決算採決等

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネルで中継放送を、また、Youtubeでライブ配信を行っています。
ぜひご覧ください。



編集後記

新型コロナウイルスという目に見えないものが人間社会に大きな影響を与えている。

感染症の病気としても軽視はできないが、現在新型コロナウイルスで亡くなられた方は日本で10万人当たり1.2人、世界平均で13人。それに対して日本の令和元年の自殺者数は10万人当たり16人でさらに今年増加していると聞く。家族関係、仲間との絆、地域社会の連帯のために必要なスキップやお祭、スポーツや音楽等のイベント、飲食を伴うようなパーティー、こういったものが人々の心を癒し人々との絆を深めるものだ、このコロナ禍で改めて気づかされる。

世界でもっとも安全な場所といえる小笠原でも4人の感染者が出た。幸い濃厚接触者のPCR検査は今のところ、全員陰性と聞いているが、小笠原でもほとんどのイベントが中止となっている。そんな中、小笠原高校の名物授業ウィンドサーフィンの大会を生徒が主催して行うことになった。コロナ禍の中、先生達の心労は想像以上だろうが、リスクを恐れては何もできなくなる。考えられる対策をし準備し、たとえ何かが起きても全力で解決することがもっともすぐれた学びの場であると私は思う。10月2日本来ならば大会を取材して記事にする予定だったが、大会当日の天気予報で大雨雷高潮注意報が発令され、残念ながら9日に延期となってしまった。3密からは程遠い小笠原の青い海に一人ずつ風に吹かれて走るウィンドサーフィンで9日には高校生たちの素敵な思い出になる大会が出来るように10月2日に祈っている。

（清水良一）

★議会だより編集委員

安藤重行 清水良一
築館俊一 金子 隆

